

2026年2月17日

PILLAR 株式会社 **PILLAR**

個人投資家様向け会社説明会

目次

01 PILLARってどんな会社？

02 業績推移・業績予測・中期経営計画

03 株主還元

01

PILLAR ってどんな会社？

2024年、創業100周年を機に社名およびロゴを刷新



株式会社 PILLAR

(旧社名：日本ピラー工業株式会社)

2025年、創業101周年を迎えた当社は、

創業1年目のベンチャー精神に立ち返り、更なる進化に挑む



社名の由来

船舶の蒸気機関からの漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状（=P I L L A R）であったことから日本ピラー工業（現：株式会社PILLAR）と命名されました。

創業	1924年（大正13年）
代表者	取締役社長 岩波嘉信
株式	東証プライム（証券コード:6490）
資本金	49億66百万円
事業内容	流体制御関連機器製品の製造販売
従業員数	1,212名（連結:2025年3月末現在）
売上高	579億88百万円（連結:2025年3月期）

パーパス

“社会を支える”未来を創る

C L E A N	エネルギーを最小限に ベネフィットを最大限に
S A F E T Y	何よりも安全を いつでも安心を
F R O N T I E R	常に最先端へ もっと新分野へ

社 是

品	質	第	一
和	衷	協	力
一	歩	研	究



動画再生：PILLAR会社概要（4分間）

沿革

【当社WEBサイト】
沿革



企業の歴史

1924

「日本ピラー工業所」設立



創業者
岩波嘉重

1948

株式会社に改組し、
「日本ピラー工業株式会社」を設立

1967

三田工場竣工



2001

東証一部上場

2020

新・三田工場竣工



2023

福知山第二工場竣工



1989

福知山工場竣工



2004

九州工場竣工



三田イノベーションセンター竣工



1920

1940

1980

2000

2020

1926

工業用パッキンの
本格的生産開始



1951

日本で初のメカニカルシー
ルを開発・生産開始



1932

自動車・船舶用の
ガスケット生産開始



1984

半導体製造装置向け
ふっ素樹脂継手を発売



2002

画期的なシール機構を
実現した継手を開発・発売



2012

半導体向けロータリー
ジョイントの生産開始



2021

次世代の高性能新型
継手を開発・発売



製品の歴史

数字で見るPILLAR（2025年3月期）

【当社WEBサイト】
数字で見る
PILLAR



PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

連結売上高



579億円

連結営業利益



113億円

連結営業利益率



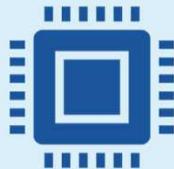
19.5%

創業



101年

継手の世界シェア



世界**No.1**
(半導体洗浄装置向け)

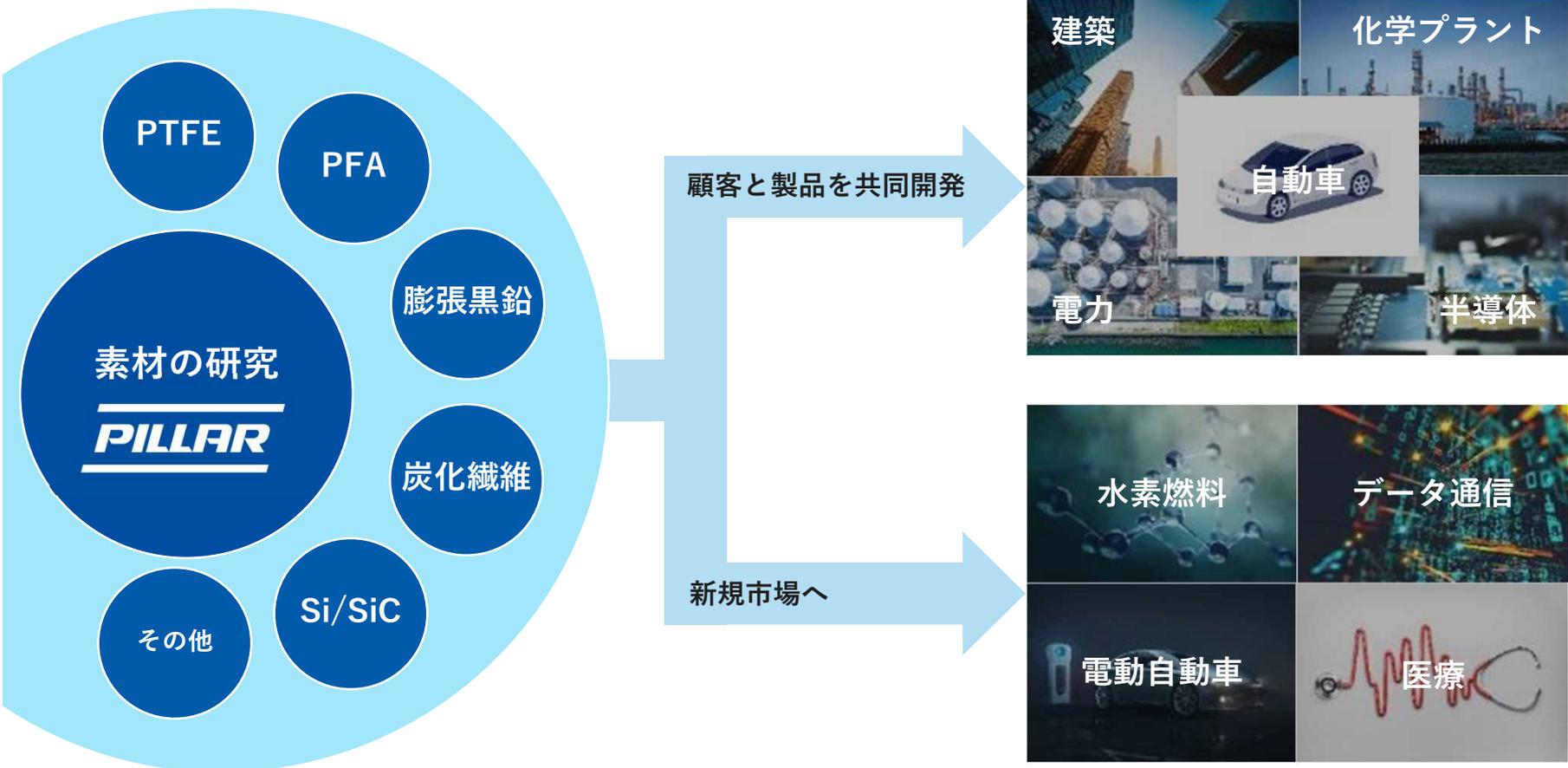
自己資本比率



75.3%

当社の強み① 100年磨いた素材開発力

- 100年にわたり液体・気体、高温・低温など様々な用途に合わせた素材を独自で研究・開発
- 素材の特性を知り尽くしているからこそ、様々なソリューションであらゆる顧客・市場に応え得る裾野の広さ
- 培った素材開発力を基にEV・水素・次世代通信（5G/6G）など新たな市場へ展開



- 電子機器関連事業では素材の特性を熟知し、技術力の向上により切削加工が一般的な製品形状でも射出成形化を実現
- 産業機器関連事業では3つのシーリング製品群で顧客ごとに流体ソリューションを提供し、顧客の課題を共に解決

ニーズに応じた製品を開発

素材の特性を熟知

射出成形、金型成形、
製品設計の技術力

素材の組合せ・加工

豊富な液体制御製品の
品揃え

電子機器関連事業

ハイテク市場向けに
ふっ素樹脂製の製品を提供



産業機器関連事業

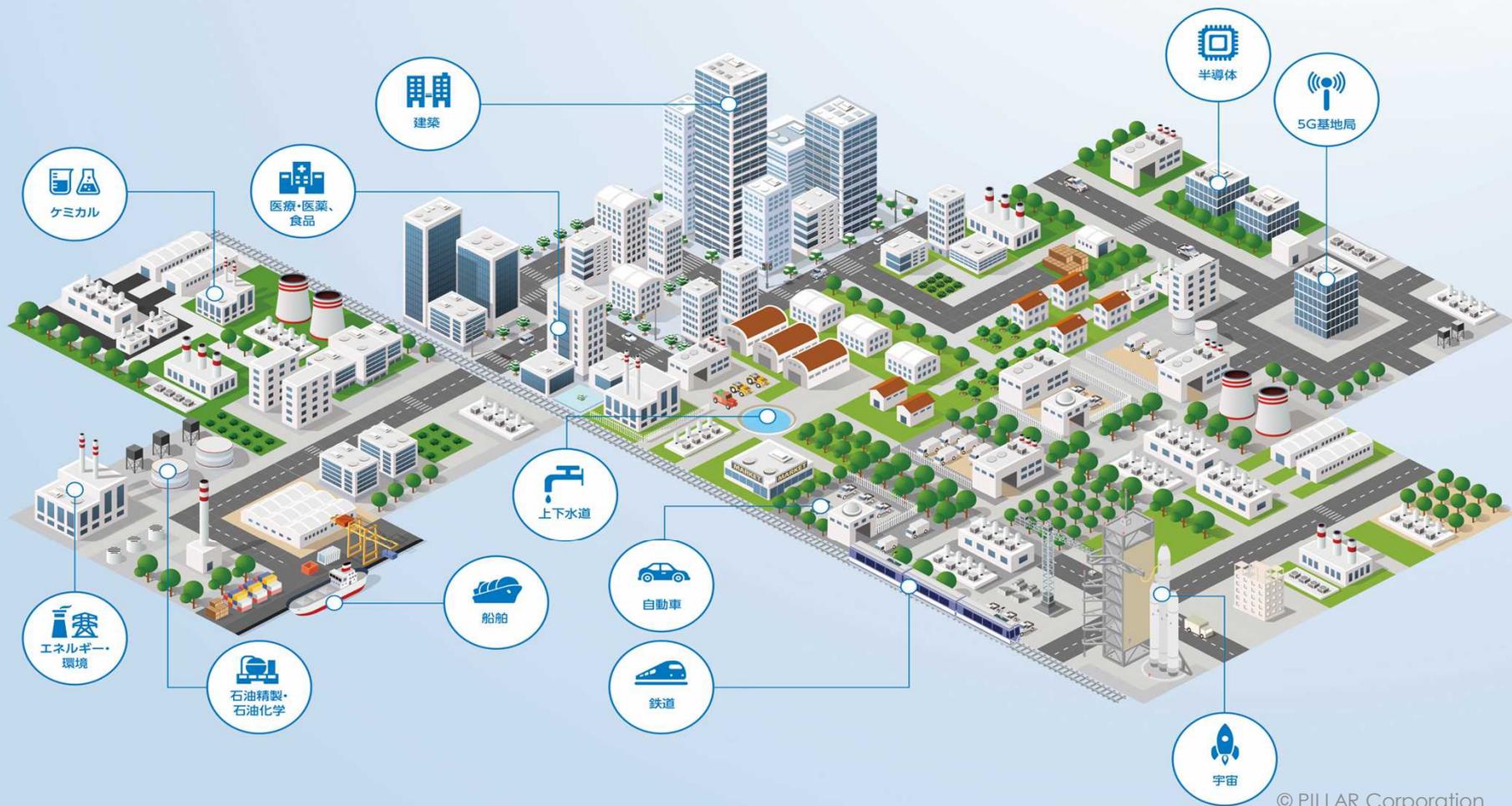
メカニカルシール、グランドパッキン、
ガスケットの3つの製品群で
流体制御ソリューションを提供



顧客の
課題解決に貢献

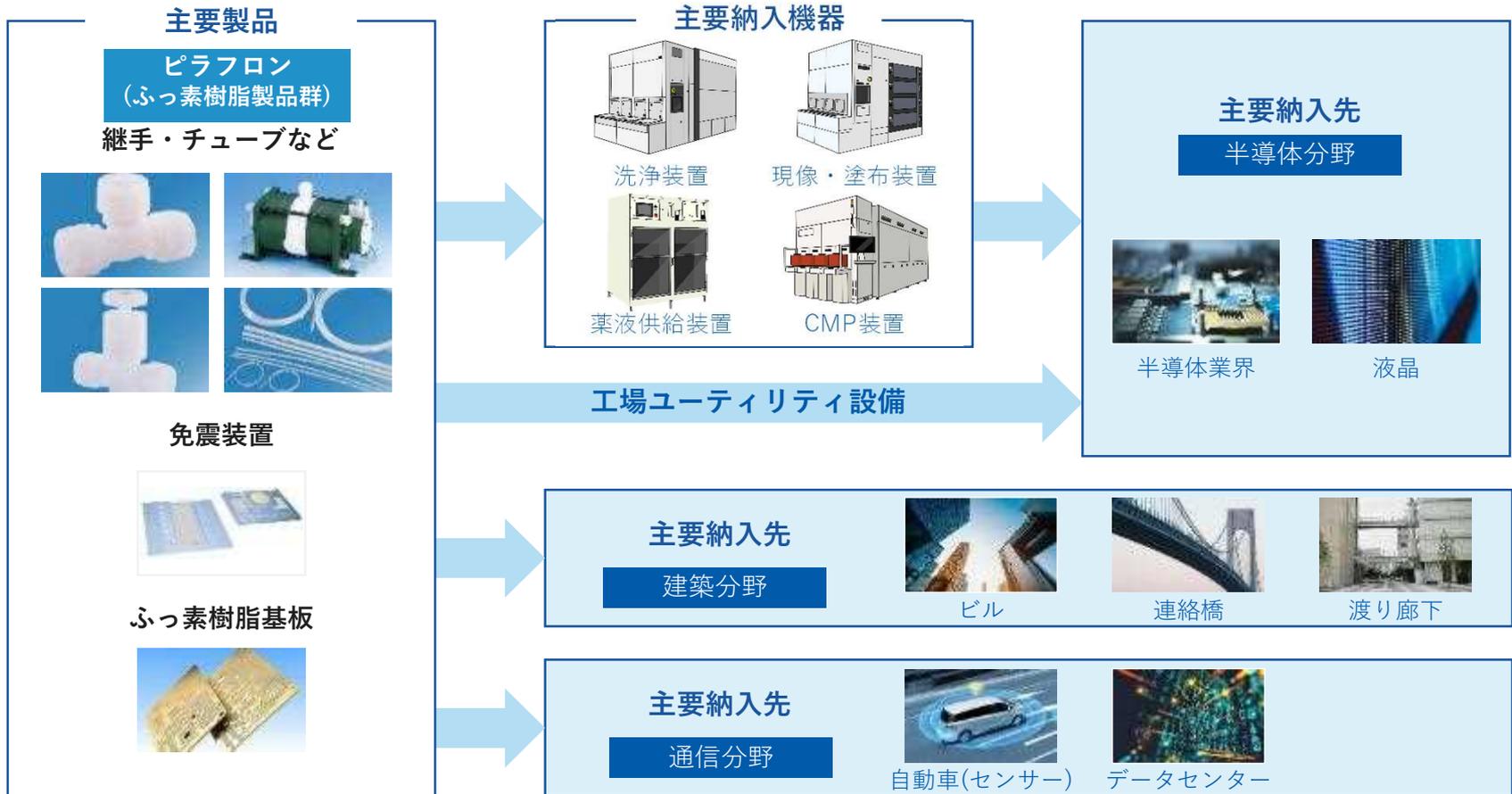
当社の市場領域

半導体・エネルギー・化学など様々な領域で、
あらゆる流体を制御して、暮らしと環境の安全・安心に貢献しています。



ふっ素樹脂の特性である「クリーン性能」・「耐薬品性」・「耐熱性」・「低摩擦性」を活かした製品群

ふっ素樹脂製の継手・チューブ等は、多様な薬液に影響されないため、半導体の基となるシリコンウエハの洗浄装置に用いられます。低摩擦性を応用し、建物から地震の揺れを逃がす免震装置に用いられています。

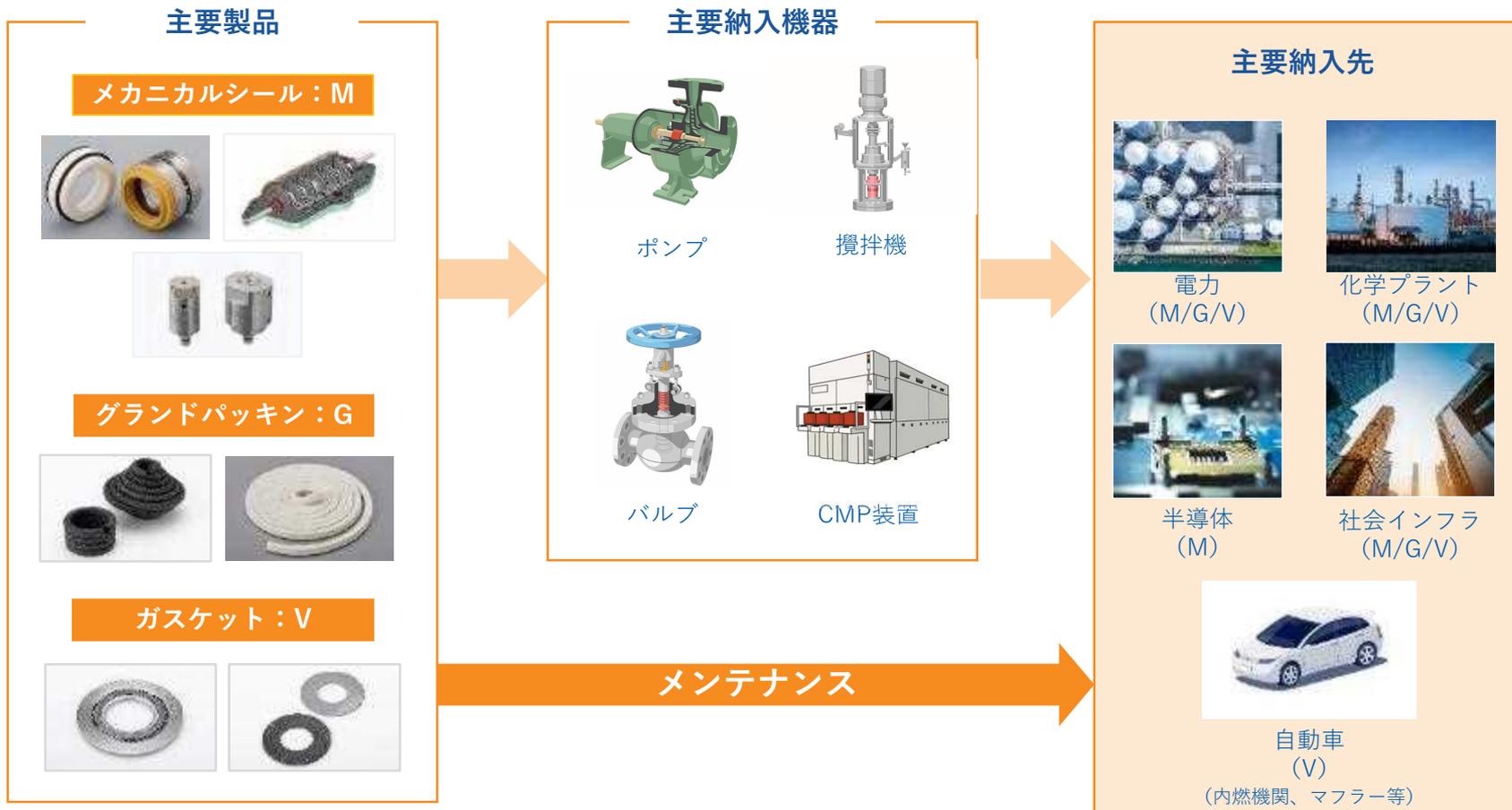


メカニカルシール・グランドパッキン

高温・高圧の過酷な条件で流体の漏れを止める装置で、石油精製・化学プラント・発電所などのポンプやバルブ等で使用されています。

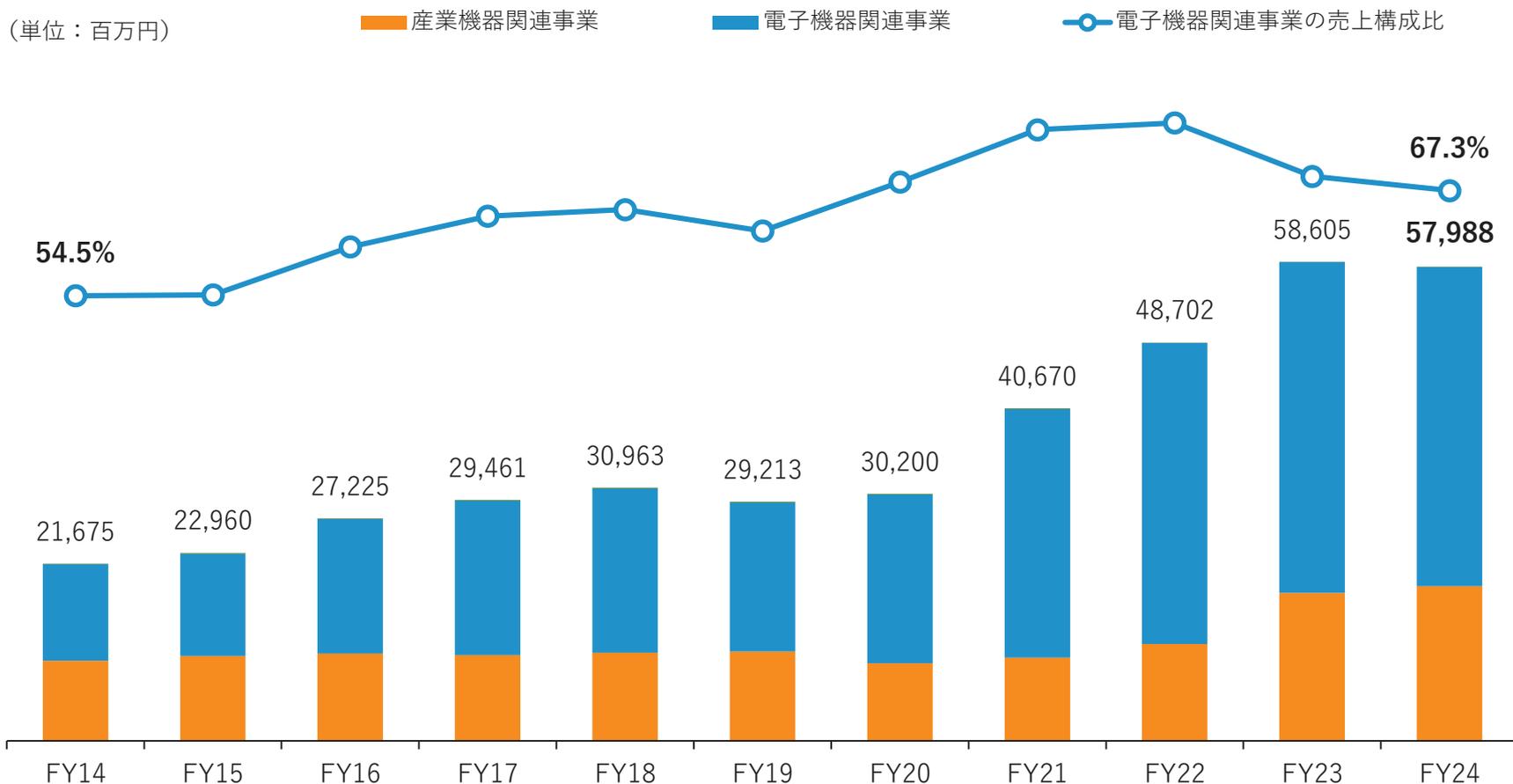
ガスケット

配管と配管の接続部で流体を制御する機能部品であり、自動車の排ガス装置にも使用されています。



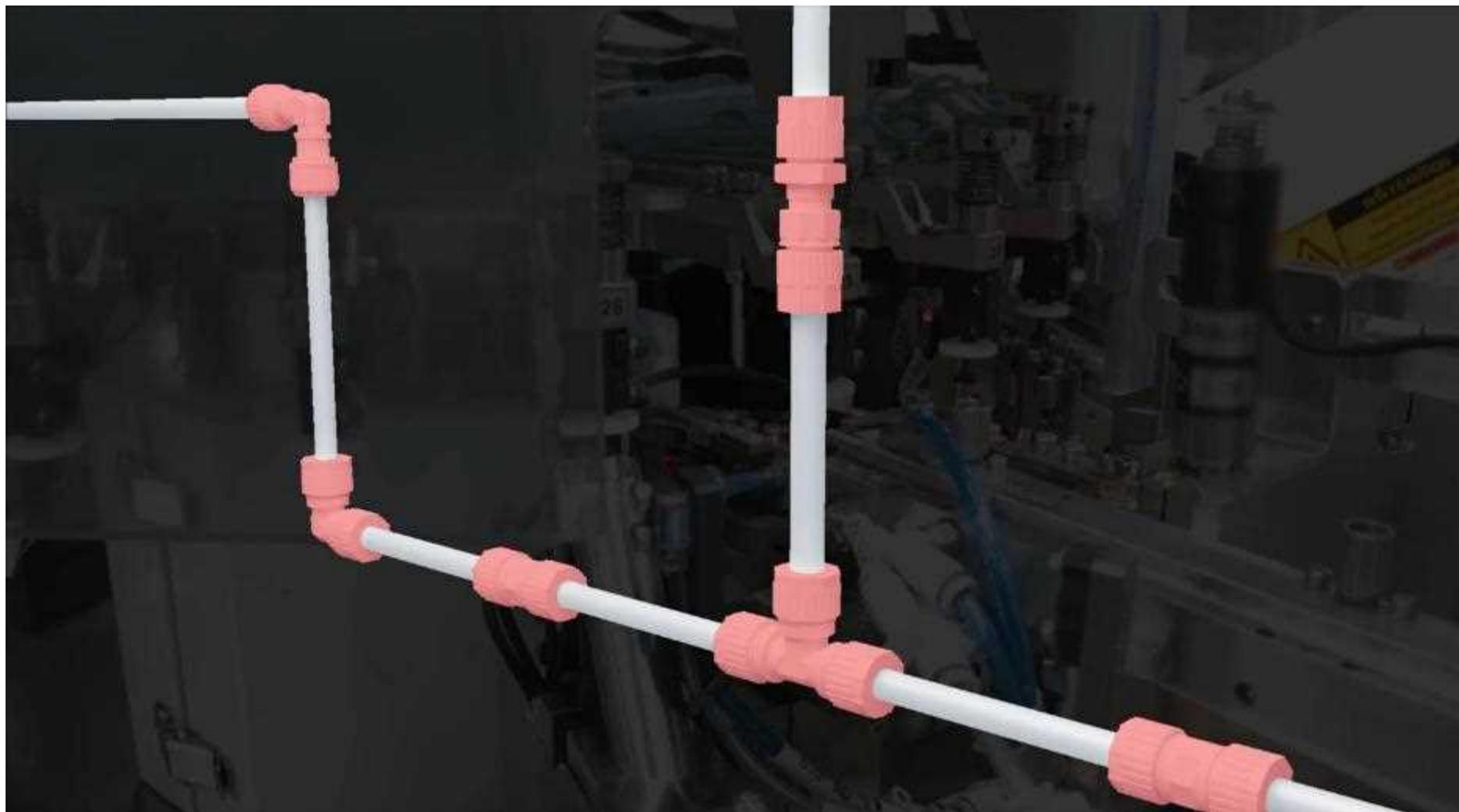
セグメント別売上・構成比の推移

- 電子機器関連事業の売上構成比は、高い市場シェアを維持しながら成長を続けた結果、2014年度の54.5%から2024年度の67.3%まで大幅にアップ
- 産業機器関連事業の売上高は、底堅い補修（メンテナンス）需要もあり事業基盤の安定化に寄与。2023年度はM&Aにより事業規模を拡大し、セグメントバランスの取れた経営に前進



ピラフロン製品紹介動画

【当社ウェブサイト】
動画で見る
PILLAR

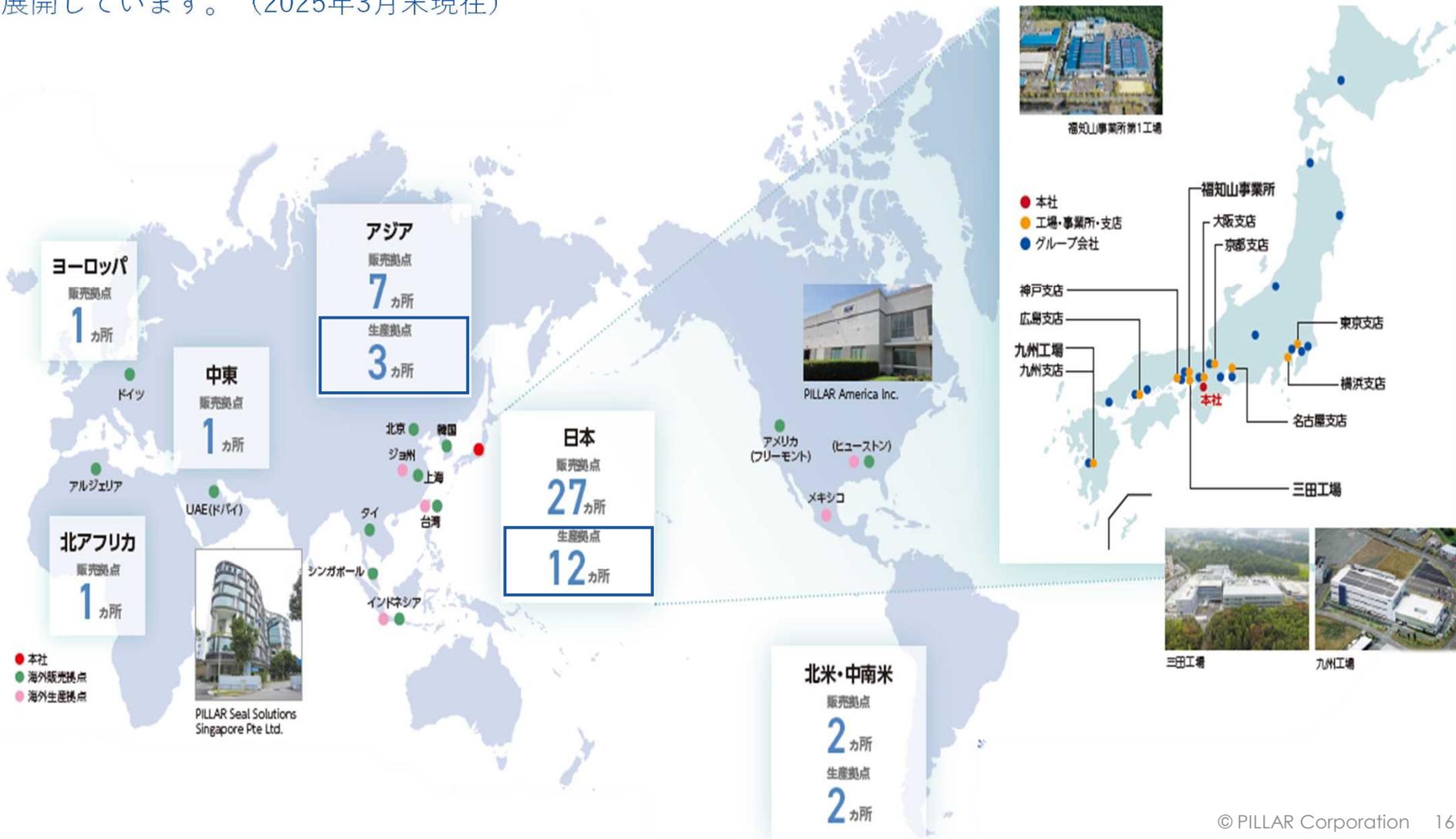


動画再生 (4分10秒)

グループネットワーク

●世界をフィールドに、技術の架け橋となります

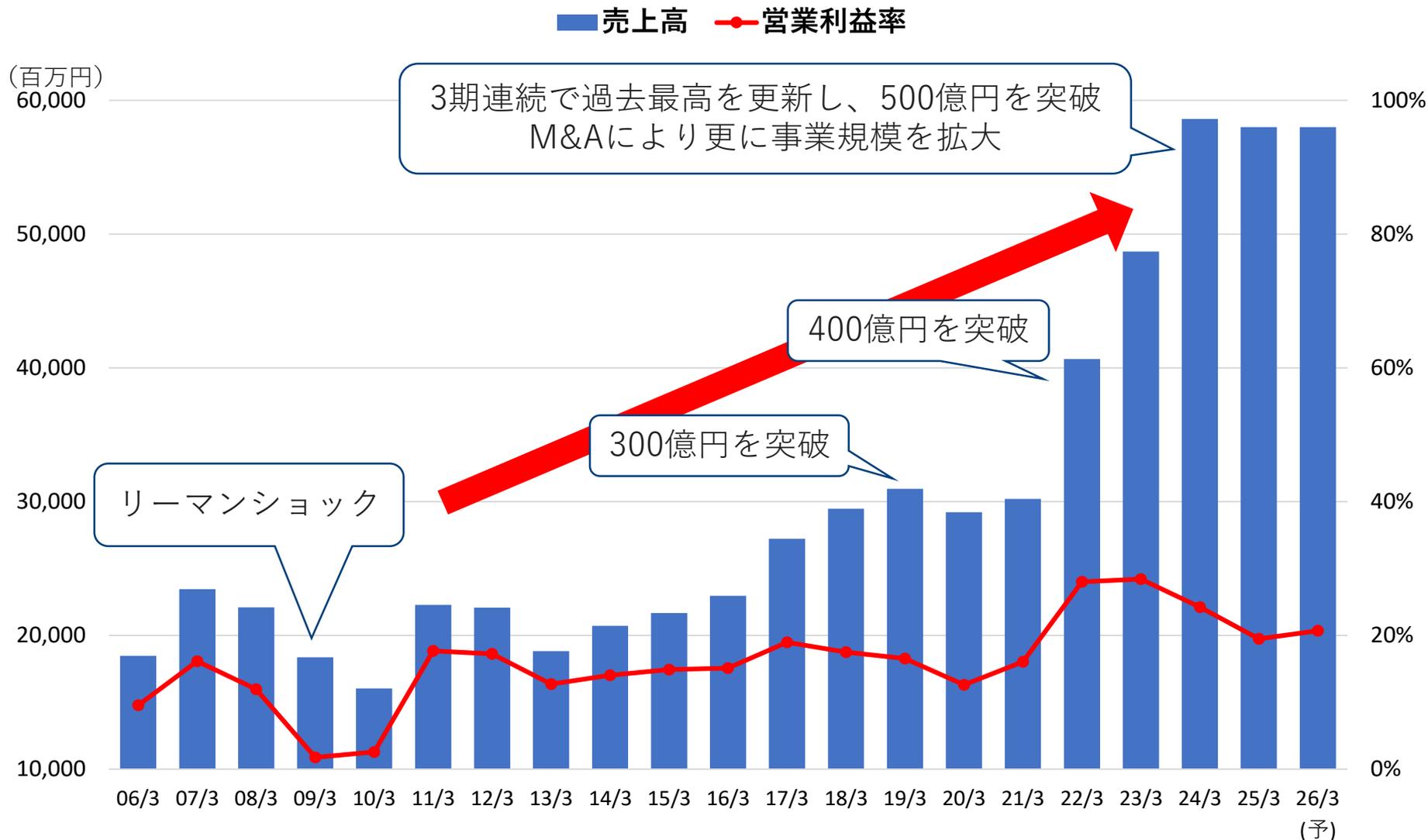
当社グループは、1980年に初の海外拠点としてKorea Pillar Packing CO., Ltd. (現 PILLAR Korea CO., Ltd.) を設立したのを皮切りに、グローバル化を推進してきました。現在では、世界の11の国と地域で事業活動を展開しています。(2025年3月末現在)



02

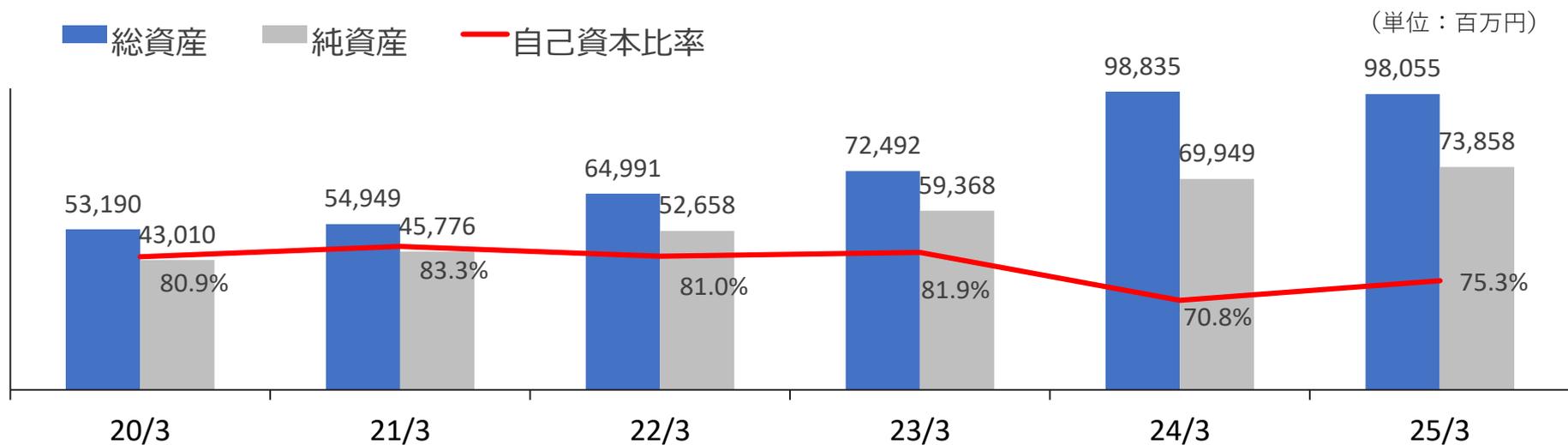
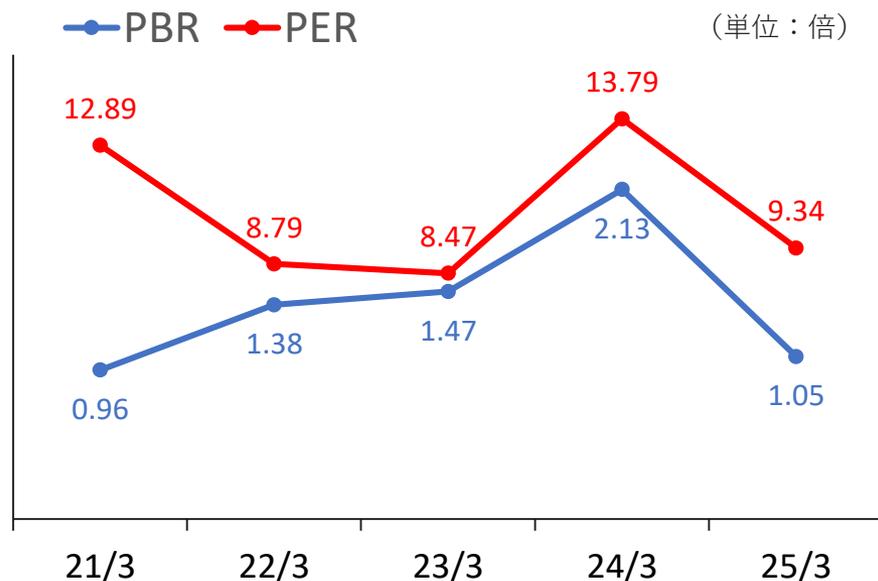
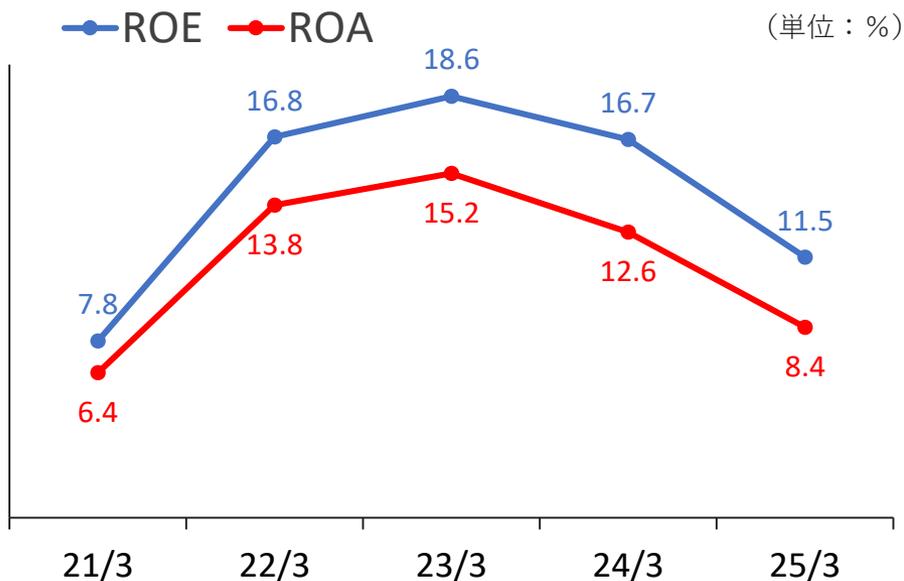
業績推移・業績予測・中期経営計画

長期業績の推移



安定した売上成長を実現しながら、高水準の利益率を維持

経営指標/財政状態の推移



中期経営計画 事業目標(連結)

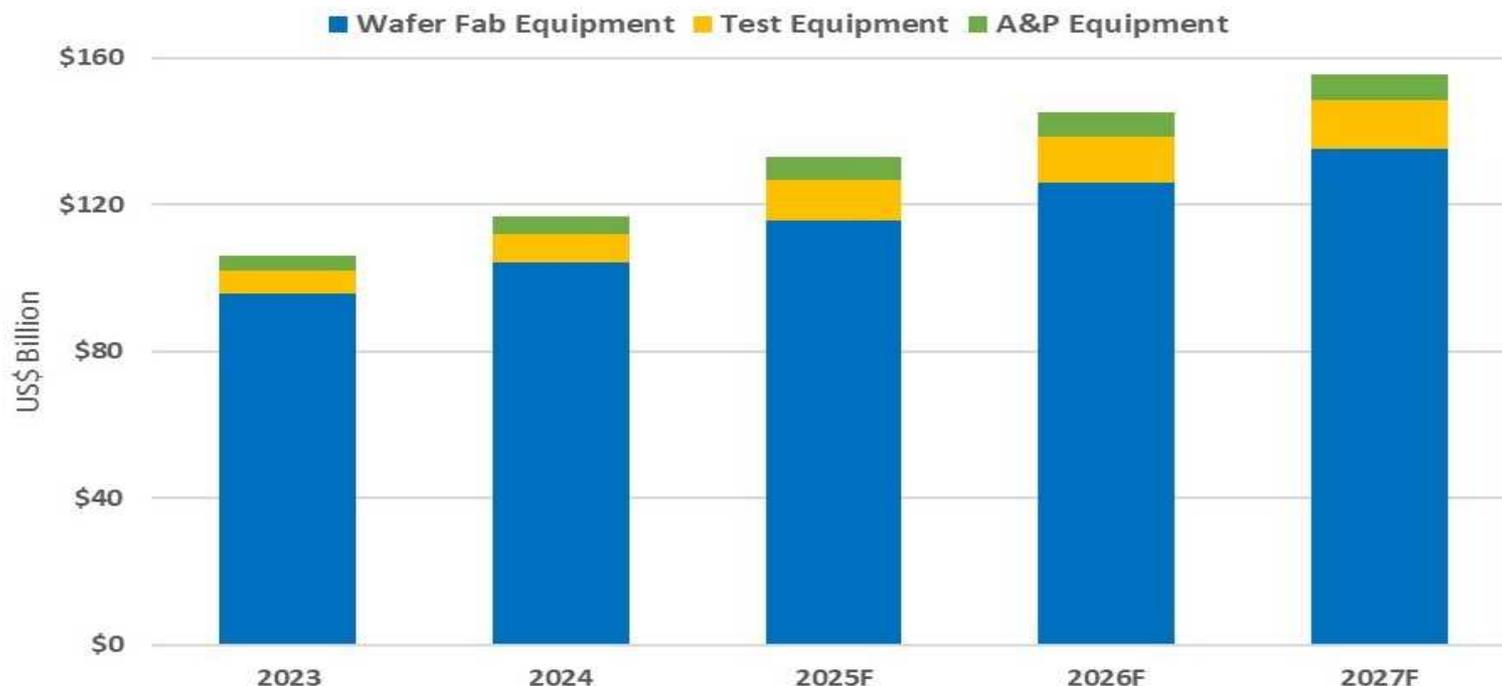
連結							
(単位：百万円)	BTvision22	One2025					One2025
	①2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	②2025年度修正目標	③増減額(②-①)	増減率(%) (③÷①)	2025年度当初目標
売上高	48,702	58,605	57,988	58,000	9,298	19.1	66,000
営業利益	13,842	14,206	11,335	12,000	-1,842	-13.3	17,000
営業利益率	28.4%	24.2%	19.5%	20.7%	-7.7P	—	25.7%
ROE	18.6%	16.7%	11.5%	10%以上	—	—	10%以上(＊)
配当性向	30.0%	34.4%	35.1%	30%以上	—	—	30%以上
成長投資	(3ヶ年累計) 3,715	21,415	3,671	4,000	—	—	(3ヶ年累計) 25,000
セグメント別							
電子機器関連事業							
売上高	36,819	40,475	39,034	38,400	1,581	4.3	48,000
営業利益	11,759	11,255	8,810	9,300	-2,459	-20.9	14,500
産業機器関連事業							
売上高	11,844	18,093	18,917	19,600	7,756	65.5	18,000
営業利益	2,059	2,928	2,501	2,700	641	31.1	2,500

(*)目標は10%以上としつつも、資本コストの上昇を受け当面は13~15%の水準を目指す

半導体製造装置市場は2027年に過去最高の1,560億ドルへ

- 2025年の世界半導体製造装置メーカーの売上高は前年比13.7%増の1,330億ドルに達し過去最高を記録
- 今後も成長し、そのけん引役は先端ロジック・メモリ・先進パッケージング技術の導入などAI関連投資
- 地域別では、中国・台湾・韓国が2027年まで装置投資の上位3か国を維持すると予想
- 2027年には初めて1,500億ドルを突破し1,560億ドル（約24.5兆円：1\$=157円）する見通し

Total* Semiconductor Equipment Market
by Segment, 2023-2027F



Source: SEMI, 2025 Year-End Semiconductor Equipment Forecast - OEM Perspective

*Total equipment includes new wafer fab, test, assembly, and packaging, but does not include wafer manufacturing equipment.

Totals may not add due to rounding.

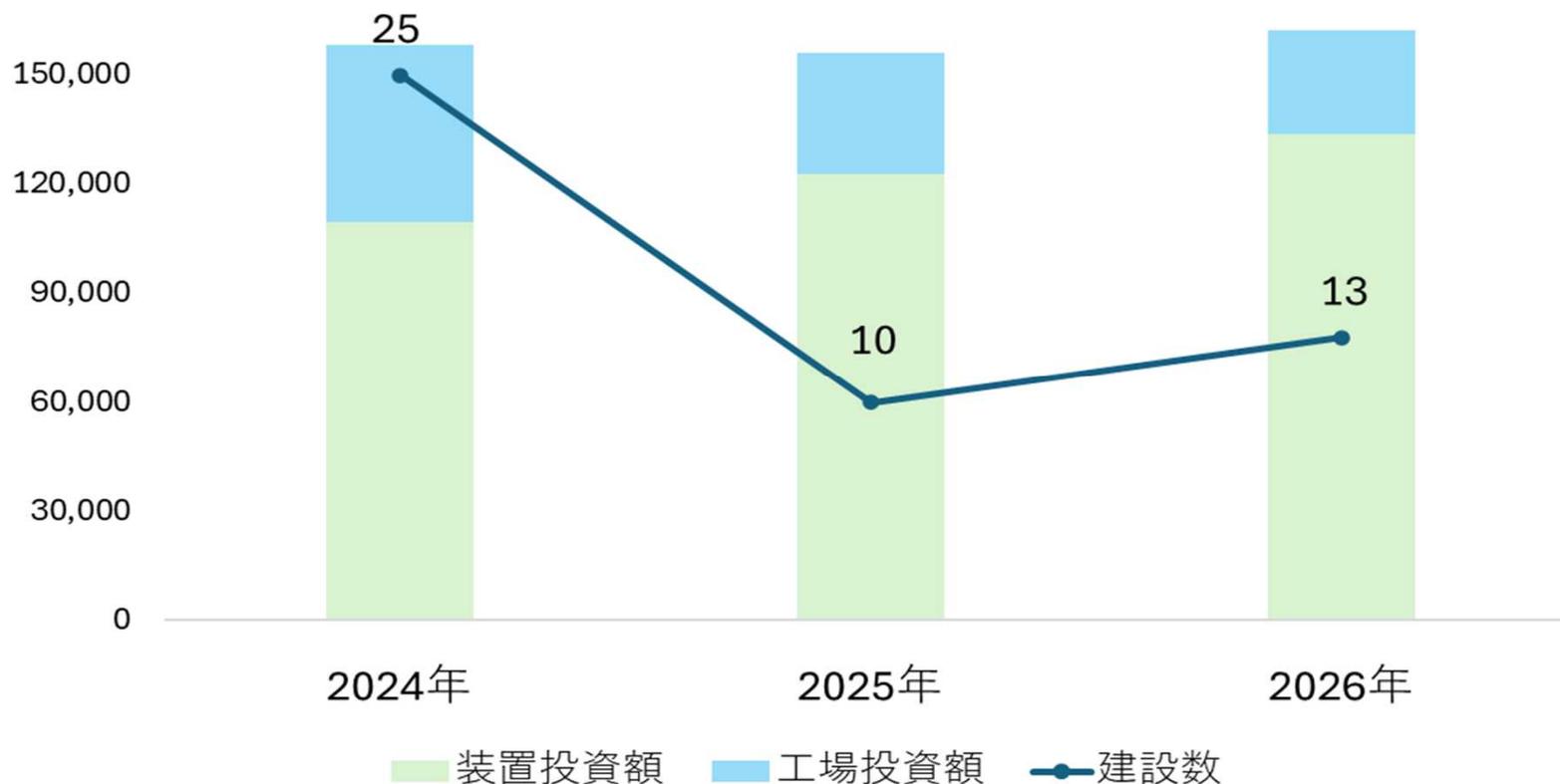
出所：SEMI 2025/12/15プレスリリース

「世界半導体製造装置の2025年末市場予測発表 半導体製造装置市場は2027年に過去最高の1,560億ドルへ到達」より

半導体工場の建設数・製造装置投資額ともに増加の見通し

- 工場建設数は2025年度に底をうち、2026年度は再び増加が見込まれる
- 製造装置への投資は2025年から再び拡大に転じ、建設済み工場の装置立ち上げフェーズが本格化
- 地域別では、市場と同様に中国・台湾・韓国が建設・装置投資の中心で今後も設備投資をけん引

(US\$ Million)
180,000



出所：SEMI 「World Fab Forecast Highlights (Jan 2024 to Dec 2026 from 4Q25 Edition)」を参考に弊社作成

最新鋭の新工場により市場成長にキャッチアップ

- 半導体市場の中長期的な拡大を見据え、2023年に福知山第2工場を新設
- 最新鋭の自動化設備を導入し、省人化・省力化と高い品質・生産効率を両立させ、コスト競争力を強化
- 生産能力は約2倍に拡充し、工場拡張エリアを備えることで、拡大する市場の需要を確実にキャッチアップ



- 中国市場での半導体向け製品の販売拡大を目指し、新工場建設
- 2025年12月竣工、2026年1月稼働開始

現工場



- 【敷地面積】
 - 8,500㎡
- 【延床面積】
 - 9,400㎡
- 【生產品目】
 - 産機製品、CS製品



新工場



- 【敷地面積】
 - 26,700㎡ (+18,200㎡) → 敷地面積が約3倍に
- 【延床面積】
 - 17,400㎡ (+8,000㎡) → 2期工事でさらに拡大予定
- 【生產品目】
 - 産機製品、CS製品、ロータリージョイント
- 日本と同水準の生産体制による高い製品品質
- 高水準の洗浄環境
- リードタイムの大幅短縮による顧客対応の強化

TOPICS② マレーシア現地法人の設立

- マレーシア政府は国策として半導体関連企業の誘致を奨励
- 半導体製造装置各社は東南アジア地域への進出を加速
- 現地生産の需要を取り込み、電子機器セグメントでのさらなる成長を目指す

【市場動向】

- 欧米の半導体関連企業は、マレーシア政府が掲げる「New Industrial Master Plan 2030」に沿った戦略的投資を積極的に展開
- 半導体産業全体に占めるマレーシアでの製造比率は年々増加傾向にある

【成長戦略】

- マレーシア市場を成長市場と位置付け、現地での生産体制を整備
- 製品の一部をマレーシア現地法人から販売することで、顧客対応の強化やリードタイムの短縮を見込む

【子会社概要】

商号	PILLAR Malaysia Sdn. Bhd.(仮称)
住所地	マレーシア ペナン地域
事業内容	ふっ素樹脂チューブの加工販売、ふっ素樹脂製品の輸入販売等
設立	2025年12月
資本金	300万USD(約4.35億円) 為替:USD=145円
出資	株式会社PILLAR100%(連結子会社)

東南アジア諸国に進出している半導体関連企業例



【生産予定の製品例】



TOPICS③ 電力監視センサ *EcoMA*™ の開発・上市

- 2025年4月に耐熱性・対候性のあるふっ素樹脂基板を活用した電力監視センサ「EcoMA」を開発・上市
- 工場やプラント等の配電盤/分電盤に簡単に設置するだけで、消費電力を24時間監視・可視化
- 設備の省エネルギー化やCO₂排出量削減といった企業の環境ニーズに貢献



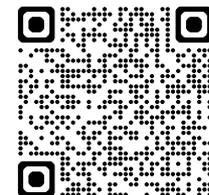
設置事例

特設サイトにて詳細情報を紹介

電力監視センサ *EcoMA*™ についての

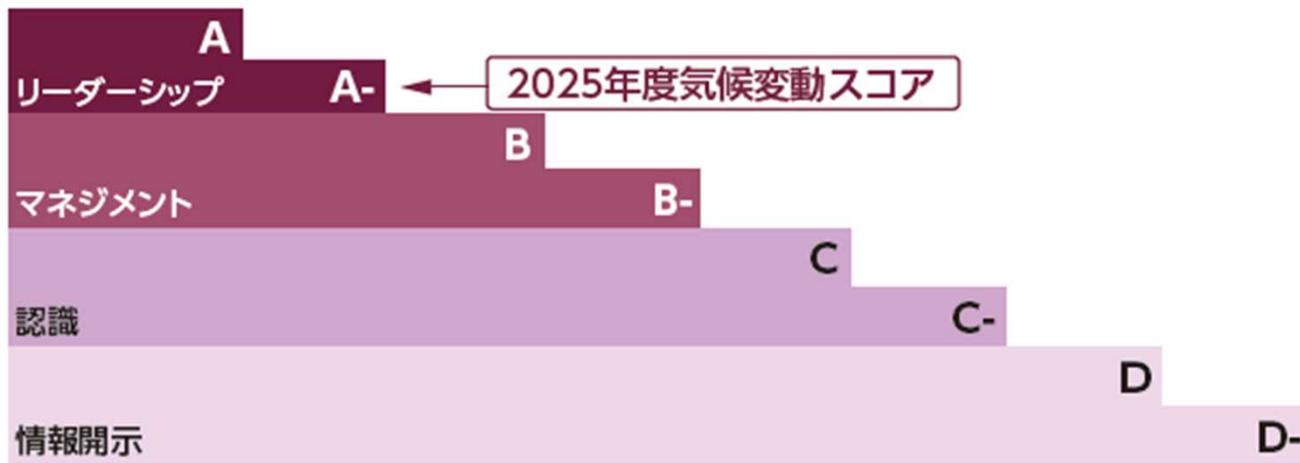
詳細情報はこちらでご確認ください

<https://www.pillar.co.jp/lp/ecoma/>



TOPICS④ CDP2025 「気候変動」分野において「A-」スコアに選定

- 環境分野における国際的な非営利団体である CDP が実施する CDP2025 「気候変動」分野において、当社は上位 2 番目の評価となる「A-」スコアに選定されました。
- CDP は、世界で唯一の独立した環境情報開示システムを運営する国際的な非営利団体です。2025 年度は、22,100 社を超える企業が CDP のプラットフォームを通じて情報を開示し、そのうち 20,000 社がスコアを付与されています。



当社では気候変動を最も重要な社会課題の一つとして認識し、当社として取り組むべきマテリアリティの最上位に「脱炭素と省エネルギー」を設定するほか、「2050 年度の Scope1+2 排出量実質ゼロ」「2030 年度における脱炭素社会実現に貢献する製品の売上高約 60 億円」の目標を設定し、気候変動の緩和と適応に向けた取り組みを推進しております。

今後も温室効果ガス排出量削減をはじめとした環境問題への解決に貢献するとともに、持続可能な社会の実現と企業価値向上に努めてまいります。

TOPICS⑤ 「東京イノベーションセンター」の新設

- このたび当社は、持続的な価値創造を加速するため、羽田エリアの大規模複合施設「HANEDA INNOVATION CITY（羽田イノベーションシティ）」内に、新たな研究拠点「東京イノベーションセンター」を開設いたします。
- 本センターでは、先端技術の研究開発を推進するとともに、産学連携や企業間共創を通じて技術革新を加速し、未来を切り拓く独創的で高品質な製品・サービスの創出を目指してまいります。



HANEDA INNOVATION CITY 外観 (提供: FOTOTECA)

稼働開始日	2026 年度第 4 四半期（予定）
所在地	東京都大田区羽田空港 1 丁目 1-4 羽田イノベーションシティ ZONE B_3F
主要な機能	<ul style="list-style-type: none">・ 新技術課題の発掘と既存技術の多角的展開・ 産学連携および企業間共創による技術革新の推進

03

株主還元

株主還元

【当社WEBサイト】
配当・株主優待

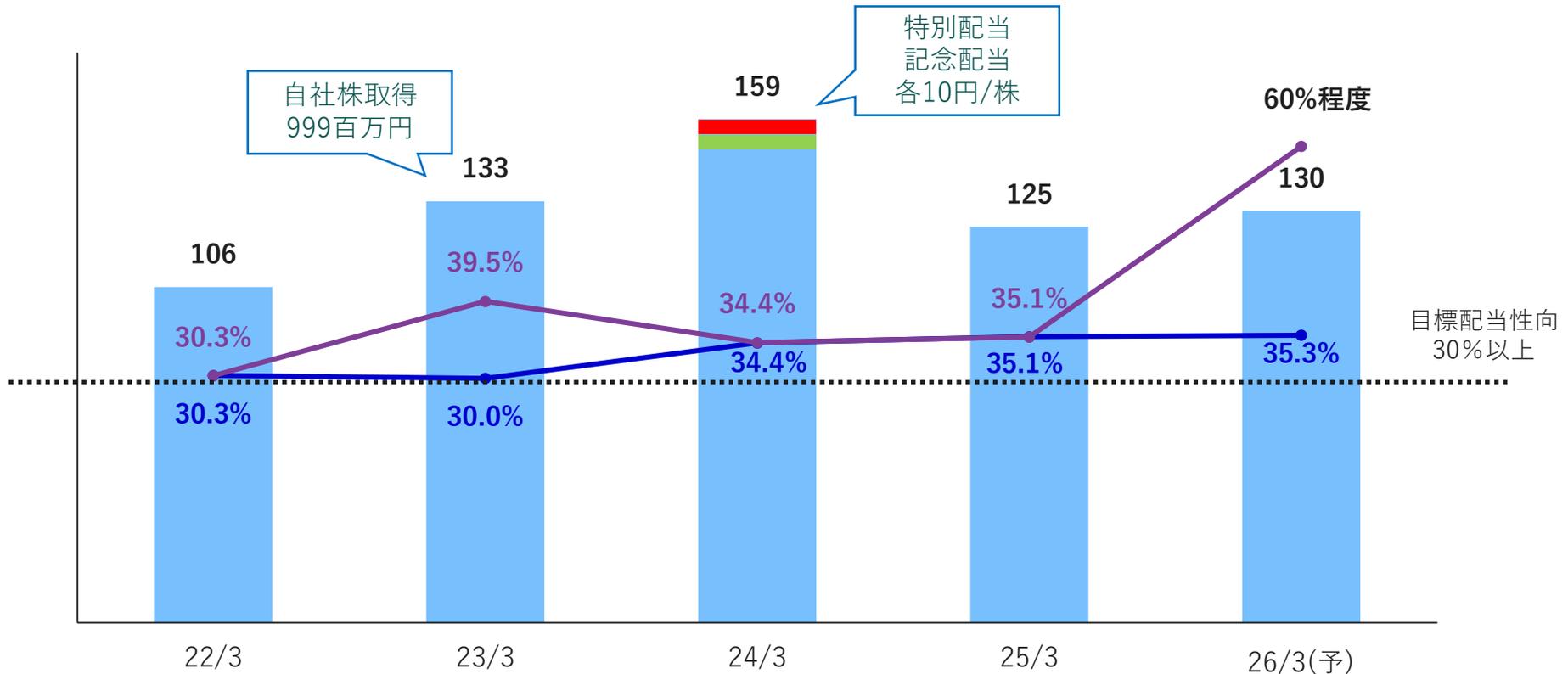


- 配当方針：安定的かつ継続的な配当とし配当性向30%以上を目標
- 配当予想：年間130円/株（連結配当性向35.3%）
- 自己株式取得：最大20億円実施（2025年5月～11月）、総還元性向（配当＋自己株式取得）は60%程度を予想

（単位：円）

一株当たり当期純利益・配当金・配当性向

■ 配当金（円） ● 配当性向（%） ● 総還元性向（%）

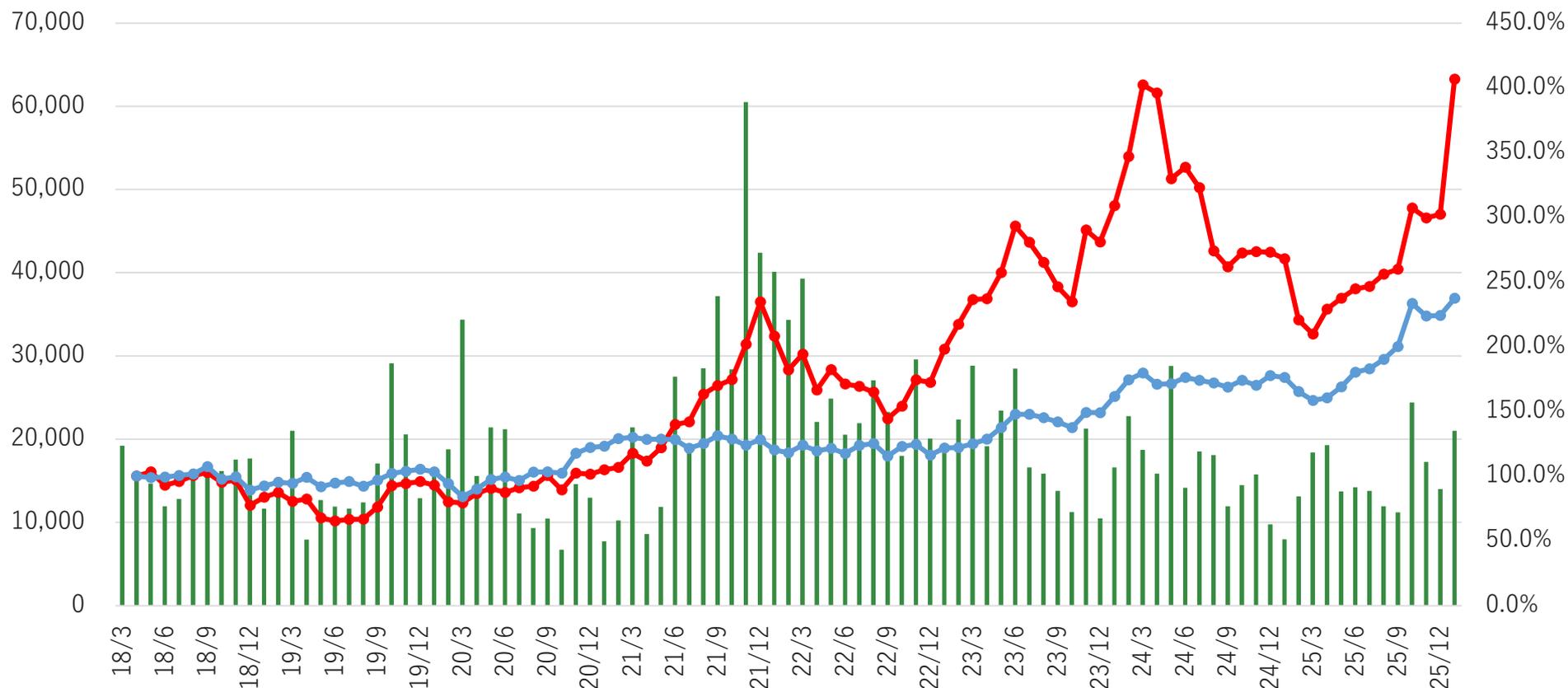


株価ファンチャート

- 2018年4月を起点に2026年1月までの株価の伸び率
- 日経平均株価をアウトパフォーム
- 2026年2月12日 上場来最高値更新 7,980円

出来高：百株

■ PILLAR出来高(百株) ● PILLAR株価推移 ● 日経平均推移



株主優待

【知って得する株主優待】
PILLAR掲載ページ



PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

一定の株式を保有していただいている株主様に感謝するとともに、より多くの株主様に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

オリジナルQUOカード進呈



企業情報サイト「[知って得する株主優待](https://yutai.net-ir.ne.jp/company/6490/)」にて当社の優待情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://yutai.net-ir.ne.jp/company/6490/>



保有株式数／継続保有期間	3年未満	3年以上
100株～500株未満	1,500円	2,000円
500株～1,000株未満	2,000円	3,000円
1,000株以上	3,000円	4,000円

(注)：保有年数3年以上とは、毎年3月末日及び9月末日現在の株主名簿に同一の株主番号が連続して7回以上記載または記録されていること

お知らせ

【統合報告書2025の発行（2025年8月）】

編集テーマ：当社グループが創業以来100年にわたり培った
ビジネスモデルおよび競争優位性の紹介や、
次の100年に向けたさらなる挑戦など、
「PILLARの稼ぐ力」をテーマにしました。

- 社長の思いを一問一答形式で示す
- 100年磨き続けた素材開発力と豊富な流体ソリューションについて特集
- PILLARグループのビジネスモデルや競争優位性を説明
- 財務・人財・事業・サステナビリティの各事業戦略について説明
- PILLARグループを支えるガバナンスについて説明



<https://www.pillar.co.jp/ja/ir/annual-report/>

【ESG/SDGsの取組み】

E 環境	・ 2024年度CDP 気候変動「B」、水セキュリティ「B」スコア獲得
	・ 温室効果ガス(GHG)排出量、エネルギー使用量、取水量における第三者検証を取得
	・ 気候移行計画の策定（脱炭素社会への取り組みなど）
S 社会	・ 人権に関する開示拡充（マネジメント体制、デューデリジェンスプロセスなど）
	・ 人的資本経営の推進
	・ 国際協力や地縁地域の地域貢献など社会貢献活動の推進・拡充
G ガバナンス	・ CSIRT設置など情報セキュリティに関する取り組みの強化
	・ 人権や安全保障貿易に関する研修の継続実施
	・ IR／SR活動の強化

本日はありがとうございました

当社WEBサイトのご案内

トップメッセージや中期経営計画、最新のIR資料、株式関連情報などを掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/ir/>

会社・製品紹介動画のご案内

会社案内および製品紹介動画を当社WEBサイトで公開しております。こちらもぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/about/movie/>

- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。

【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社PILLAR 経営企画部

<https://www.pillar.co.jp/ja/inquiry/ir/>

